

跳ねて、止まって、胸張って ツグミ

11月後半から陶史の森にも見られるようになりました。「ツグミ」です。スズメ目ヒタキ科、全長24cm程の野鳥です。

夏季にはシベリア中部や南部で繁殖し、冬季になると中国南部などに南下し、越冬しますが、日本もツグミの越冬先となっております。例年1月20日頃は大寒ですが、そのとき日本よりも北方に位置するシベリアでは寒さがさらに厳しく、1日の平均気温が-50℃にもなることもあります。ツグミは、そんな過酷な自然環境を避けて、11月あたりから日本へやってきます。

冬鳥なので日本で繁殖せず、さえずることをしません。そこで口をつぐんでいる鳥ということで「ツグミ」と呼ばれるようになったといわれます。食べ物がある採食場の規模によって群れていることもあれば、単独で生活することもあります。

主食は、土中に住む昆虫類の幼虫やミミズ類でこれらを探す時は地上を跳ね歩き、時折立ち止まって胸を張る動作を繰り返します。じっと観察していると、その動きがとても滑稽で何か楽しくなる鳥です。

冬のよく晴れた日にせせらぎ公園の芝生の上で、何度も跳ねては胸を張り、えさをついばむツグミの姿が見られます。



胸を張る「ツグミ」



えさを探す「ツグミ」



元気いっぱいの方が響きます
—ちびっこ広場—

12月6日(日)

小春日和の一日。陶史の森の「ちびっこ広場」は元気に遊ぶ子ども達の声が響いていました。

今年は、コロナ禍のために外出を控え3密を避ける生活が長く続いていることが子ども達の生活にも大きく影響していることと思います。自然の中でのびのびと活動することができる陶史の森の「ちびっこ広場」も人気が出てきています。

新年になってもまだまだコロナの影響が大きいと予想されます。マスク、手洗いを徹底し、3密を避けながら楽しんでいただきたいと思います。



教室のご案内

1月

バードウォッチング (要申込 定員10名)

1月24日(日) 午前9時～11時30分

陶史の森ネイチャーセンター横、林泉の池堤防へお集まりください。

真冬の野鳥を観察します。 雨天中止

2月

バードウォッチング (要申込 定員10名)

2月28日(日) 午前9時～11時30分

陶史の森ネイチャーセンター横、林泉の池堤防へお集まりください。

春先の野鳥を観察します。 雨天中止

ネイチャーセンターでは、双眼鏡や野鳥図鑑を貸し出しています。気軽に声を掛けてください。

陶史の森は自然環境保護地域です。動植物や石などは絶対に採らないでください。また、ペットの同伴はご遠慮ください。